



# 都市医師会 だより

札幌市医師会医政講演会

## 日本の政策—構造改革と社会保障—

東洋大学経済学部総合政策学科教授 高橋 洋一

札幌市医師会

政策部長 鈴木 伸 和

平成21年2月27日午後6時半より札幌市医師会館大ホールにおいて恒例の札幌市医師会医政講演会が開催されました。今年度は「さらば財務省！」や「日本は財政危機ではない！」などの著書で知られる東洋大学経済学部総合政策学科の高橋洋一教授を講師にお招きし、「日本の政策—構造改革と社会保障—」というテーマでご講演をいただきました。あいにくの雪模様でしたが、131名がご来場くださいました。

会に先立って上埜会長からご挨拶がありました。「これまで国民は財務省の主導によって日本は財政危機だと信じ込まされてきましたが、高橋先生がいわゆる霞ヶ関の埋蔵金の存在を指摘したことで日本の動きが大きく変わってきました」「われわれがかねて問題だと訴えてきた社会保障費の2200億円機械的削減についても、高橋先生の著書によれば一般会計に組み入れている労働特会2000億円をまわせば済むことなのに、セクショナリズムの弊害で同じ厚労省の予算として相殺できないそうです」などを指摘されながら高橋先生をご紹介されました。

その後座長の私が「はたして構造改革と社会保障は並び立つことができるのでしょうか。その辺を詳しく伺いたいと思います」と述べて、高橋先生にご登壇いただきました。ご存知の通り高橋先生はいわゆる小泉—竹中改革のブレインを務められた方ですので、それを踏まえての発言でした。しかし高橋先生は「もしかして私はとんでもないテーマを選んでしまったのでしょうか？」と会場を沸かせながら、構造改革の説明からお話いただきました。

高橋先生が描いている構造改革というのは1)不良債権の処理、2)郵政民営化、3)道路公団民営化の3つだけなのだそうです。したがって社会保障制度を壊そうというものではないが、強いて自分が社会保障関係でやりたかったことといえば、年金と医療、

介護を一元的に管理する「社会保障大勘定」だったそうです。今話題の社会保障カードの導入問題です。私たちは国による管理医療や民間による悪用の懸念、個人情報保護やセキュリティーの問題などから現在は反対の姿勢をとっていますが、高橋先生のお話を聞くと、最近国民もいわゆる年金業務を巡る混乱を



高橋 洋一 講師

回避できるという点で歓迎ムードになってきており、私たち医療機関側にとっても、健康保険証、介護保険証、年金手帳などの即時被保険者資格確認ができるメリットを考えれば、今一度導入の是非について検討してもいいのではないかと思われました。ちなみに経済財政諮問会議が取り上げた社会保障制度改革については、混合診療全面解禁の件は吉川洋氏が、医療費の総額マクロ管理は大田弘子氏が個人的に強く呼び続けていたことであり、高橋先生自身はまったく興味がなかったそうです。

いわゆる霞ヶ関の埋蔵金についての高橋先生の見解はきわめて明瞭でした。埋蔵金は40兆円ほどある。なぜあるかといえば、官僚がでたらめにお金を集めるだけ集めるから。では官僚はなぜ埋蔵金があるのに「ない」と答えるのかということ、それは国民に使うお金が「ない」ということで、自分達官僚が使うなら「ある」のだそうです。

最後に高橋先生が提案している政府紙幣について、与謝野馨財務大臣がテレビで「あれは『円』ではない。『両』だよ」と皮肉っていることに言及されました。ご存知の方も多いと思いますが、高橋先生は上げ潮派といわれ経済成長をわが国の財政再建の近道と訴えており、増税を優先的に訴えている財政再建派（高橋氏は「財政タカ派」と表現します）の与謝野氏とは財政再建の手法が異なります。高橋先生は天皇陛下御在位10年の記念通貨などが通貨であるのと同様に政府紙幣もきちんとした通貨となりうることを説明されて、「残念ながら与謝野さんは通貨法をよくご存じないらしい」と切り捨てられておりました。

講演終了後フロアから「高橋氏が進めている財政政策で、ずいぶん国民の格差は大きくなってしまったように思うが」という質問がありました。それに対して高橋氏は「(自分達が進める財政政策は)格差が広がることをやむを得ないとは思っていません。むしろ貧困層をどれだけ引き上げるかどうかが大切だと考えているのですが、残念ながら今はいい体制にないといえませんか」というお答えでした。

高橋先生の益々のご活躍をご祈念申し上げます。